

Strix 7: 291-295 (1988)

東京都馬事公苑におけるコゲラの営巣記録

多賀レア¹

まえがき

東京都世田谷区にある馬事公苑では、それまではいなかったコゲラが1985年5月から生息するようになり、1987年と1988年には営巣と巣立ちも確認された(多賀 1988)。本報では、育雛活動を詳しく観察した1988年の営巣経過について報告する。

調査地と調査方法

馬事公苑の位置、面積、植生については別報(石田・多賀 1988)を参照していただきたい。

1つ目の穴を発見してからヒナが巣立つまでの毎日、巣穴周辺の様子を確認し、コゲラがいるときには遠方の物陰から望遠鏡を使ってその行動を観察した。親鳥は、観察者が巣から20mをいど以上離れていれば、その存在をほとんど気にしない様子であった。

結果および考察

表1に巣穴の特徴を示した。営巣木は、長さ約55m、幅約10mの池のほとりに連なる植え込みの中の、周囲から見通せるかなり開けた環境にあった。巣穴の面している北西側には、中央を高く盛り土した坂道の馬走路があり、巣穴は走路の目の前になることになり、北側の遠方からもみえた。また、営巣木の周囲は遊歩道になっており、営巣中にも、周囲のシダレザクラの満開時には多くの花見客が訪れ、すぐ下にはベンチがあって普段も人がすわることもあった。生きた木の枯枝を利用した点と比較的開けた場所にある点は、他のコゲラの巣と同様であるが(石田 1986, 石田, 川内私信)、これほど人間の近づく環境で営巣することは、都市緑地に進出しつつあるコゲラに特有の習性と思われる。

表2には、繁殖・営巣活動の経過の概要を示した。1回目に巣穴を掘りかけたのは、1987年に育雛途中でスズメに妨害されてしまった巣穴のあるのと同じヤナギで、入口はその約50cm下にあった。穴掘り活動が観察されなかった3月26日～4月3日、4月7日は天気が悪く低温の日であった。この穴が途中で放棄された理由は不明だが、ねぐら穴は別にあることと、後ですぐそばに営巣したことか

表1. 巣穴の特徴

樹種	ヤナギの1種
胸高直径	92cm
木の高さ	約5m
入口の高さ	4.0m
穴のある枝の状態	枯れて柔らかい
入口部分の枝長径	10.5cm
“短径	10.0cm
入口の直径(ほぼ正円)	3.2cm
入口の方向	ほぼ北向き

表2. 1988年の繁殖・営巣活動の経過

(1回目の穴)	
3月25日	営巣木と10m足らず離れたヤナギに新しい穴を 発見, 掘る行動は観察されない
27日	交尾観察
4月4日	雌雄ともに穴掘り
6日	全身が入る深さになった
7日	中にいるが, 作業はみられなかった
8日~	穴のそばにコゲラはいない
10日	交尾観察
(2回目の穴)	
4月18日	営巣穴が全身の入る深さになっている
21日	雌雄とも, 別にあるねぐらへ帰るのを確認
22日	抱卵?
23日	抱卵確認
5月6日	ヒナへの給餌, 初認
14日	ヒナの羽毛は未成長, 裸
19日	ヒナに足環装着 (♀3, ♂1)
20日	ヒナが入口からみえるのを初認
27日	巣立ち (入口の反対側に親が開けた別の口を利用した)
7月7日	足環のついたコゲラ若鳥終認

ら, 巣穴のための試掘をし, なんらかの物理的条件が不十分であったために放棄したと想像される.

2回目の巣穴は, 4月18日になって掘っているのをみつけた. すでに体がすっぽり入る深さになっており, 雌雄が15~20分ごとに交代して掘っていた. 4月22日には雌雄が交代で穴に入っていたが, 観察中は常に入口から顔を出していたので, 抱卵していないようであった. 翌23日には, 時々顔を出すだけだったので, 抱卵していることが確認できた. このコゲラも, キツキ類に一般的なように毎朝1卵ずつ産んで最終日に抱卵を開始し (石田 私信), 4卵だったとすると4月20日から産卵が始まったことになる. この日の観察では, 20~45分ごとに雌雄が抱卵を交代していた.

5月5日までの13日間の抱卵期間中に, 雄が利用していた (巣とは別の) ねぐら穴に入るのを4回確認し, 雌らしい個体が巣穴に残るのを1回観察した. 大部分のキツキ類では, 夜は雄が抱卵するもとのされ (Short 1982, 石田 私信), コゲラでもその例が知られている (三沢 1976, 土橋 私信) が, コゲラには例外があるらしい.

5月6日12時35分に雌が餌を1つくわえて入ったことから, 孵化を確認した. 13時10分に雄が交代するときには, 何もくわえずに入った. 13時15分に, ふたたび雌が3つの餌をくわえて入った. その後17時15分までは観察しなかったので不明だが, 雄の給餌は確認できなかった. 18時の時点で巣穴には雌がいた. 5月7日からは, 大体15~25分間隔に雌雄交代で給餌するのが観察され, 徐々に1回に持って来る餌量が増えた. 5月9日には, 雌雄が同時に巣を離れるのを初めて確認した.

孵化確認後5日間の5月10日には, 昼間は親が巣に残らなくなった. また, 膜につつまれたヒナの



図1. 約14日齢のコゲラのヒナ (川内博氏撮影).

Fig.1. An about fourteen day-old *D. kizuki* juvenile. (Photo by Mr. H. Kawachi).

糞を運び出すのも確認した。それ以前は、ヒナの糞を親鳥が食べてしまったと考えられる。

孵化後9日目の5月14日に、足環装着の下見のために石田、川内両氏とともに巣の中を確認した。ヒナの数は3羽以上を確認した。ヒナの羽毛はほとんど生えておらず、ほぼ裸の状態であった。気温が低ければ、まだ昼間も親に抱いてもらう必要があるはずであった。

孵化後14日目の5月19日早朝に、巣からヒナをとりだして足環をつけた。ヒナと親への影響を最小限にとどめるために、足環装着と同時に写真を撮るだけで、計測はせずにもどした。雌3羽、雄1羽で、体長は約8cmであった。羽毛は体全体で伸びていたが、大部分が羽鞘につつまれていて広がらず、上尾筒などにまだすきまがあって肌がでていた(図1)。作業の最中に親鳥が戻ってきたが、1時間余り後には正常の給餌活動にもどった。

同日は、18時9分に飛去した後18時30分になっても親鳥はもどらず、この日から夜間も抱雛しなくなった。ただし、寒くて雨も降っていた5月22日の夜のみは抱雛した。5月20日に、巣穴入口にヒナの頭が初めてみえるようになった。5月21日には、胸までみえるようになった。孵化後19日目の5月24日には、足指もみえ、ヒナは入口から頭をだし、舌やくちばしで入口のまわりをさぐるようになった。この段階では、額の羽毛の模様から4羽のヒナを区別できた。

孵化後21日目の5月26日には、ヒナが身をのりだすようになった。親鳥の警戒声に反応してヒナが引込むのも観察された。15時30分を最後に、親鳥がヒナの糞を運びだすのがみられなくなった。

孵化後22日目の5月27日6時に、すでにヒナは巣立っていた。入口とは反対側の10cmほど低い位置に別の楕円形の穴が乱雑に開けられ、巣の下に新しい細かい木屑が散乱していた。巣立ちを促すために親鳥が別の穴を開けて、ヒナはここから出たものと思われた。前日のほぼ終日にわたって、巣の前の柵のペンキ塗り作業が行なわれたことが1つのきっかけかもしれない(親鳥がしばしば警戒声をだしていた)。池の反対側のサクラ林で、親の警戒声や誘導声と複数のヒナの声がしていた。動きが速くて個体数や足環の色は確認できなかったが、ヒナは4羽ともいたようであった。7時30分までに、池を回って樹木伝いに、池の約100m北にある常緑広葉樹林まで移動した。15時にも、家族で同じ林

内にいるのを確認した。雌雄の親鳥は18時18分に、それぞれのねぐら穴に入ったが、ヒナのいる位置はわからなかった。

巣立ち後のヒナは木の上の方において、葉陰になって十分に確認できなかった。親鳥からヒナの給餌は、6月12日まで確認できた。雄の青・水色と、雌の青・赤および青・黄の足環が確認できた。ヒナを最後に確認したのは、7月7日の1羽(青・黄)であった。

馬事公苑のコゲラは、抱卵(13日)や孵化から巣立ちまでの日数(20日)は、ほぼ正常であった。1回の営巣には、巣穴掘りまで含めると、1月半ほどかかったことになる。しかし、上記したように、人通りの多い場所に営巣する点では特異であり、今後も繁殖がつづくのか、あるいはどんな形でつづくのか興味深い。今回は妨害を受けずにヒナが無事巣立ったが、昨年妨害されたスズメの他に、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス等の捕食、妨害行動が心配される。コゲラが主に活動していた常緑広葉樹の自然林では、繁殖後の一時期に150羽余りのハシブトガラスがねぐらをとっていた。親鳥はねぐら穴に入っていたが、ヒナは自分のねぐら穴を持っていない場合が多いと考えられ、朝夕にハシブトガラスに捕食される危険があった。

巣立ちの現場を直接観察できなかったので、親鳥が2つ目の口を掘ったのかなど正確な状況は不明である。本来の入口以外の穴を巣に開けた例としては、アカゲラが給餌に利用した3例(有澤 私信)があるが、巣立ち直後の巣に新たな穴が開いていたのは、珍しい観察であった。また、キツツキでは例外的に、雌が夜間の抱雛する可能性を指摘できたことも、貴重な観察であった。

謝 辞

コゲラの観察にあたって、閉苑後に中でねぐら入りを確認させていただくなど、日頃から馬事公苑の方々に寛大なご配慮をいただいている。都市鳥研究会の川内博、東京大学の石田健の両氏には、足環をつける作業など、いろいろなことをご助力・ご教示願っている。これらの方々に、感謝の思いでいっぱいである。

引用文献

- 石田健. 1986. コゲラの生活. 野鳥 51(12): 18-21
 石田健, 多賀レア. 1988. 馬事公苑(東京都内)武蔵野自然林の植生とコゲラの穴木分布.
 Strix 7:
 三沢昌夫. 1976. 雄が夜間抱卵<コゲラ>. 続・野鳥の生活. 築地書館: 32-36.
 Short, L.L. 1982. Woodpeckers of the World. Delaware Museum of Natural History,
 Delaware. p.26.
 多賀レア. 1988. 馬事公苑のコゲラ. ユリカモメ 393: 5.

1. 〒156 東京都世田谷区桜 3-17-3

An observation of *Dendrocopos kizuki* nesting in a park of Tokyo.

Rea Taga¹

I observed nesting activity of a pair of the Japanese Pygmy Woodpecker at Equestrian